

# 町に施設に「観念美術」が融合

## 下諏訪出身・松沢宥さん作品「まちなか展覧会」

「観念美術」で知られた下諏訪町出身の芸術家松沢宥さんに光を当てる「生誕100年祭」。町と諏訪市の計11会場では「まちなか展覧会」と題し、松沢さんの作品を展示している。それぞれで松沢さんの芸術と街、施設の雰囲気

2年間米国に留学し、現代美術や宗教哲学を研究。64年、真夜中に「オブジェを消せ」との声を聞いたことを機に、言語を主な表現手段として国内外で作品を発表してきた。メイン会場の下諏訪町諏訪湖博

物館・赤彦記念館では作品に加え、資料などで松沢さんの歩みを紹介。1月29日から200人以上が来場し、同館は「例年のこの時期に比べるとかなり多い」と驚く。この他の各店舗での展示は、100年祭実行委員会が店主らと相談して企画。町内の喫茶店「カフェ・タック」には松沢さんの欧州訪問時の写真とパフォーマンスをする松沢さんのパネルを組み合わせた不思議な空間が出現した。

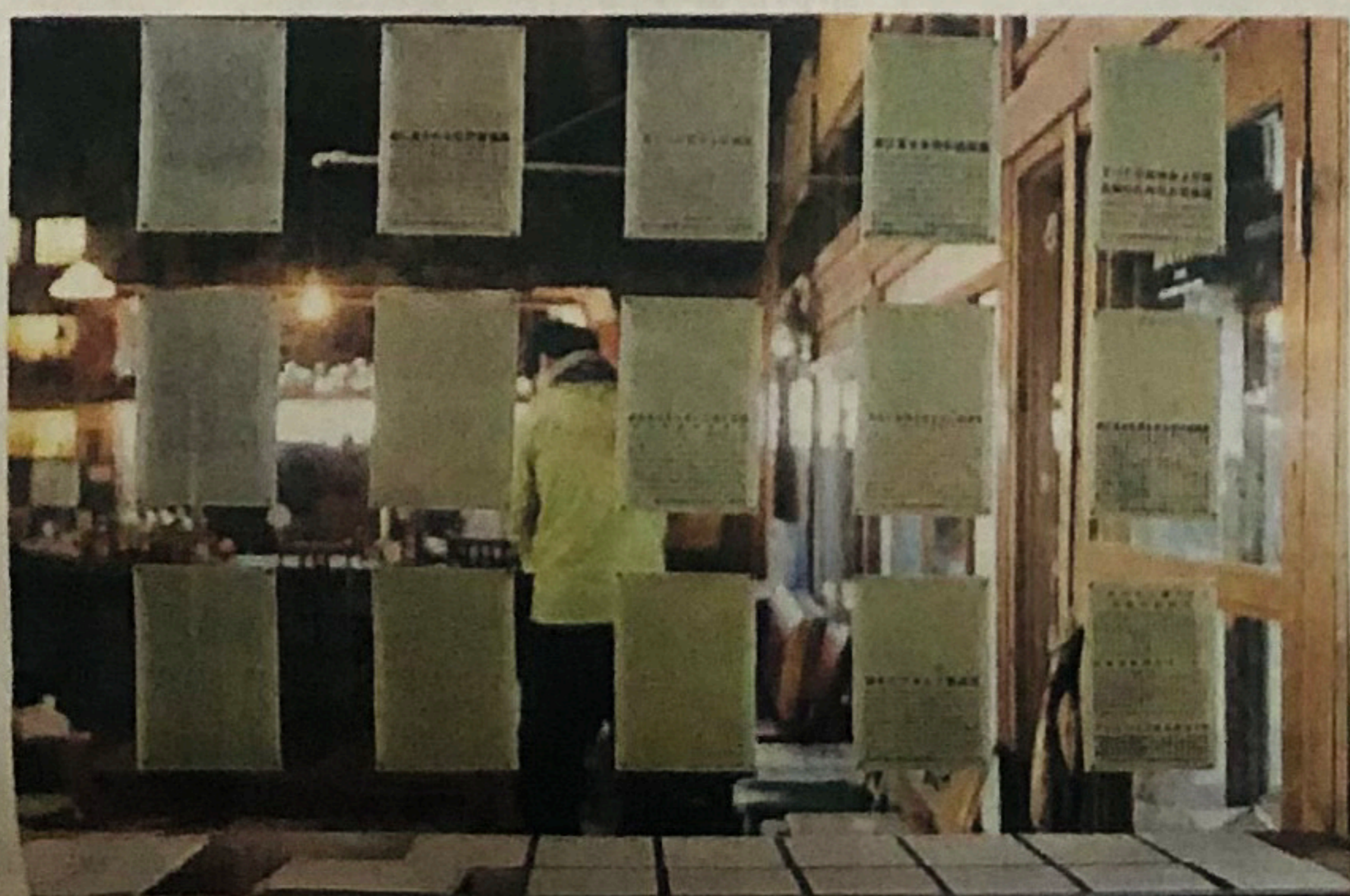
町内の「マサヤゲストハウス」では言語による「ハガキ絵画」と題した作品などが並ぶ。同町の旅館「御宿まるや」内の喫茶店ではお茶を楽しみながら、未公開作を含む絵画11点を見ることが出来る。「それぞれ大切にしているお店に、店主の皆さんが自分なりの松沢さんを展示してくれている」。その雰囲気を楽しんでほしいと同実行委の那波佳子さん(43)は話している。展覧会は3月21日まで。



カフェ・タックの一角。松沢さんのパネルとともに、欧州訪問時の写真などが壁を埋め尽くす



御宿まるやの喫茶店。絵を眺めながらお茶を楽しめる



マサヤゲストハウスに並ぶ松沢さんの「ハガキ絵画」

エリックスキッチンの店内。「松沢さんの作品を見に来るお客さんも多い」と店主